

活動企画コンテストが開催されました

5月31日に勤労福祉会館で「H20年度 まちづくり活動助成事業 公開審査会」が開催されました。

今年度も『身近な生活空間の保全・改善・創造のための活動』に取り組む団体に対して助成する、という趣旨で開催され、今回は、たまご部門が随時受け付けとなった為、はばたき部門だけの審査となりました。新規の2組を含め、13組が公開審査に挑んだ結果、9組の団体が助成金を受け取ることができましたが、今回、惜しくも助成対象とならなかった団体も、活動目的が素晴らしいものばかりだったので本当に残念でした。ぜひ再チャレンジ審査(※)を受けて頂いて、大きく活動をして頂けたらと思います。

また、当日の来場者数は56名でしたが、東大まちづくり大学院と早稲田大学芸術学校からの見学もあり、昨年とはまた違った雰囲気でも盛況に終えることができました。

再チャレンジ審査(※)

今回助成対象とならなかった団体については、審査委員会からのコメントを受け、指摘事項について計画内容の改善を行い、申請書を再提出し、認められれば助成金を受け、活動することができる仕組みです。

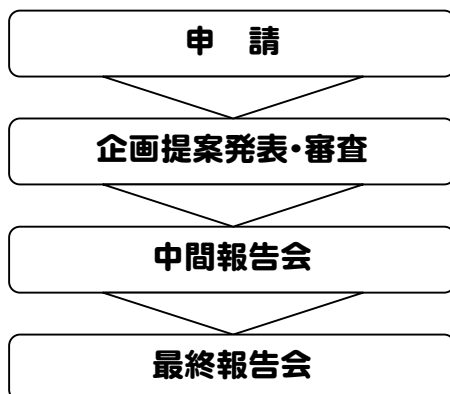
まちづくり活動助成事業とは

まちづくりセンターの「まちづくり活動助成事業」は、区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会の実現のために取り組む、区民主体のまちづくり活動への支援を目的とした事業で平成18年度よりおこなっています。平成18年度は11団体に100万円、平成19年度は15団体に総額230万円を助成しました。



H20年度 活動助成事業 活動企画コンテストの一風景

活動助成事業の流れ



◆助成部門は3つあり、たまご部門は、身近な生活空間の保全改善等のために取り組む前に、事前の学習を行いたいまちづくり活動団体、はばたき部門は身近な生活空間の保全改善等のために取り組むまちづくり活動団体、テーマ部門は身近な場所で生き物と呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創り出す活動団体が対象です。

◆申請団体は、公開の場でプレゼンテーションを行い、審査の結果助成団体が決定します。

◆助成を受けた団体は、中間報告会や最終報告会に参加し、自分たちの活動を公開の場で報告し、他の団体との意見交換(交流)をおこないます。

審査委員会

今年度の審査員は下記のとおりです。

委員長	小泉 秀樹	東京大学大学院准教授
副委員長	朝倉 暁生	東邦大学准教授
	佐谷 和江	NPO法人まちづくり情報センターかながわ理事、技術士
	阪西 淳史	まちづくりセンター運営協議会委員
	武田 実代子	元練馬区まちづくり条例区民懇談会委員
	宮下 泰昌	練馬区 都市整備部 都市計画課長
	福辺 邦男	練馬区都市整備公社 常務理事

(平成20年5月現在、敬称略)

審査結果

<はばたき部門>

今回は、13団体の申請があり、9団体が助成対象となりました。全体的には昨年度から引き続き活動している団体からの申請が多く、まちづくり提案に関する活動や環境についての企画提案などがありました。

また新規グループとしては近隣の公園を自分たちで管理する提案をするなど、事業3年目でより幅の広いまちづくり活動について発表がありました。

グループ名	得票数	結果	決定金額 (円)
		再チャレンジ	-
		☀️ 助成決定	300,000
		再チャレンジ	-
		☀️ 助成決定	180,000
		☀️ 助成決定	246,000
		☀️ 助成決定	230,000
		☀️ 助成決定	267,400
		再チャレンジ	-
		☀️ 助成決定	300,000
		再チャレンジ	-
		☀️ 助成決定	95,600
		☀️ 助成決定	176,000
		☀️ 助成決定	150,000

※上から発表順。得票数は審査員7名の得票（審査員は25点満点で15点以上獲得した団体に1票を与える）



中間報告会&再チャレンジ審査

<中間報告会>

今回助成を受けることになった団体の、活動の進捗状況の報告を行う中間報告会を平成20年11月上旬（予定）で開催します。

<再チャレンジ審査>

今回助成対象とならなかった団体については、審査委員会からのコメントを受け、指摘事項について計画内容の改善を行い、申請書を再提出して頂きます。改善が認められれば助成金を受けることができます。